

## 言語学習における情意面の一考察 (2)

—Language Anxiety と Affective Strategies の文献研究—

竹 田 明 彦

(武庫川女子大学文学部英米文学科)

## A Study of the Affective Domain in Language Learning (2): A Literature Review on Language Anxiety and Affective Strategies

Akihiko Takeda

*Department of English, Faculty of Letters,*

*Mukogawa Women's University, Nishinomiya 663, Japan*

Since the concept of language anxiety has been made clear, research on anxiety in language learning situations has made remarkable progress. Researchers have realized that language anxiety should be divided into several types. This paper describes two types of anxiety in language learning situations: communication anxiety and foreign language anxiety.

When language learner's anxiety is high, how does he/she manage to reduce it? Good language learners are said to use affective strategies to lower their anxiety. Some affective strategy training may be effective for learners to enhance language acquisition. This paper considers affective strategies which will be effective in FL classrooms and discusses some studies on affective strategies conducted so far.

### Communication Anxiety と Foreign Language Anxiety

言語学習における anxiety の研究は、学習の場で生じる language anxiety に限定して研究されるようになってからかなり一致した調査結果が導き出されるようになったが、言語学習の場にもいろいろな状況がある。最近では oral communication の能力が要求され、speaking と listening をするときの不安をどのように学習者は克服するか、そして教師はどのように生徒を指導するかが問題となっている。このような場面の不安を communication anxiety と呼んでいる。Foss and Reitzel(1991) は次のようにまとめている。

Communication anxiety is the abnormally high and debilitating level of fear associated with real or anticipated communication with one or more persons. It can manifest itself as a trait — a general reluctance on the part of an individual to communicate regardless of context — or it may occur only in specific situations, such as when giving a speech or conversing in a foreign language. <sup>1)</sup>

Communication anxiety を学習者の能力の一部として考える見方もある。Spitzberg and Cupach(1984) は speech communication に現れる表面的なものだけを competence と判断するのではなく、Fig. 1 のように学習

者の心理も含めて能力と考えている。彼らの仮説によると speech communication の competence は 5 つの要素から構成されている。Speech communication ができる要素としてもっともその基礎となるものは motivation である。これらのものが合わさって self-perception として自覚されると考えている。<sup>2)</sup>

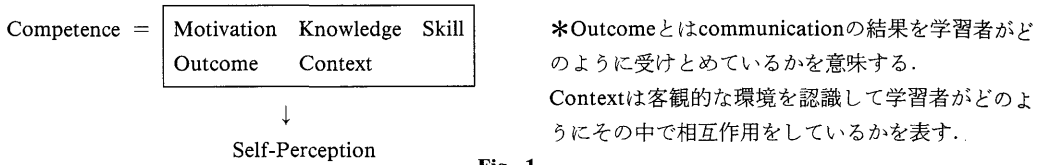


Fig. 1

外国語として言葉を学習する場で生じる不安は foreign language anxiety と言われる。Foreign language anxiety は基本的に communication anxiety と多くの類似点を持っている。Friedman(1980) は次のように述べている。

Foreign language anxiety seems to share certain characteristics with communication anxiety, for example, high feelings of self-consciousness, fear of making mistakes, and a desire to be perfect when speaking.<sup>3)</sup>

このような特徴に加えて foreign language anxiety には 3 つの要素 — ① 外国語学習の場では限られた能力しかもたないその外国語によってコミュニケーションすることを要求されるから、言語知識の乏しさから不安が生じる、② 外国語の授業では言語技能が非常に重視されるから、そのテストを失敗する恐れから不安が生じる、③ テスト以外にもたえず評価されているような状況におかれるから、自分に対する他人の眼が気になり、過小評価されていると気遣う — が加わる。とくに大人は母国語を使う時には感じることはない risk-taking を要するから、今までに築いてきた自尊心が傷つくことを恐れる。<sup>4)</sup>

### Learning Style と Learning Strategy

Rubin(1975) による good language learner を細かく観察した研究が、教師の指導法の研究から学習者の学習方法に更に深く目を向けるきっかけを作ったように思われる。<sup>5)</sup> ここで先ず学習者が不安にどのように対処して学習を行うか (affective strategy) を考える前提として strategy そのものの基本的な用語を理解する必要がある。

Strategy とは一般的に「戦術」や「戦略」を意味するが、言語教育でいう learning strategy は「学習方略」と訳されている。Learning style が新しい情報を取り扱うときの習慣的な心理作用のパターンであるのに対して、learning strategy はあることを学習するために学習者がとる意識的な手段である。この言葉について Ehrman and Oxford(1990) は次のような説明をしている。

The term “learning style” indicates preferred or habitual patterns of mental functioning and dealing with the information.... Strategies are the often conscious steps or behaviors used by language learners to enhance the acquisition, storage retention, recall and use of new information. <sup>6)</sup>

言語を学習する者はどのレベルの学習者であっても strategy を使って言語学習をしているが、そのこと自体をあまり意識していない。研究の結果 successful language learner は他の者よりもいろいろな strategy を用い、自発的となり、言語技能を伸ばすことが明らかになってきた。従って learning strategy を訓練することによって言語学習の成果があがると考えられるようになった。

### Oxford による Strategy の分類

Oxford(1985) の 'A New Taxonomy of Second Language Learning Strategy' は strategy を direct strategies と indirect strategies に分類している。Memory strategy と comprehension strategy は文字通り記憶と理解の方略を意味するが、cognitive strategies は意味を受け取ったり、出したりするための言語の操作、metacognitive strategies は学習したことの体系化と評価、affective strategies は感情や態度のコントロール、social strategies は他人とのコミュニケーションをする strategy を意味している。

#### Oxford Strategy Classification System

Direct Strategies	Indirect Strategies
I. Memory strategies	I. Metacognitive strategies
II. Cognitive strategies	II. Affective strategies
III. Comprehension strategies	III. Social strategies

7)

Strategy の研究は最近まで言語そのものをどのように習得しようとするかだけに目が向いていたので direct strategy の研究に終始していた感がある。Oxford(1985) により indirect strategy として示された affective strategies についての下位分類は不安を減少させる learning strategy を考えるうえで非常に参考になるものである。Affective strategies とは言語学習に関する感情、態度、学習意欲をうまくコントロールするための自己強化と内省である。具体的に3つの下位項目に分類されている。

A. Lowering your anxiety	1. Using progressive relaxation, deep breathing, or meditation
	2. Using music
	3. Using laughter
B. Encouraging yourself	1. Making positive statements
	2. Taking risks wisely
	3. Rewarding yourself
C. Taking your emotional temperature	
	1. Listening to your body
	2. Using a checklist
	3. Writing a language learning diary
	4. Discussing your feelings with someone else

8)

学習者が自ら不安を小さくする strategy とは、進んで筋肉をほぐしたり、深呼吸や瞑想にふけったりするようなことを意味する。音楽を使う方法は suggestopedia と呼ぶ教授法として取り入れられたが、学習者が自分で言語学習を始める前に好きな音楽を聞くこともある。Using laughter は笑いが出て来るように comic book を読むことなどの工夫を意識的にすることを意味している。

学習者はたえず自分の志気を高める必要があるとして、Oxford は言語活動の前に次のような文 (positive statements) を規則的に言わせることを勧めている。Positive statement として Oxford が示している 'It's OK if I make mistakes.' 'I can tell my fluency is increasing.' 'I enjoy understanding the new language.' などの文は一種の自己暗示であろう。<sup>9)</sup> Risk-taking とは間違いをするかもしれないとか難しい場面に直面するかもしれないという可能性があるにもかかわらず、その心配を超えて言語活動をすることである。'Rewarding your-

self' は、言語学習が自分でうまくいったと思うときに好きなものを食べるとか、ドライブに出かけるなど、自分で reward を与えていくことを意味する。

不安に対処する方法として学習者が自分の気持ちを客観的に見つめることが Oxford のいう 'Taking your temperature' である。自分の情意的な側面を知る方法の 1 つは、理由のない考え方が多くの不安の原因となっている場合が多いから、新しい言語を話すときの恐怖をリストにすることである。教師は生徒に新しい言語を喋るときにどのような不安がでてくるか尋ね黒板に次のようなリストを作る。

Anxiety in Oral Communication

Ex. I'll make mistakes and people will laugh.

My accent is awful.

It is catastrophic when things are not the way I would like them to be — that is, I cannot speak this language fluently and that is horrible.

It is easier to avoid than to face certain of life's difficulties and responsibilities.

There is one correct way to handle a particular situation, and if I don't do it correctly, the outcome will be disasterous. 10)

教師は質問紙(例:1. What irrational belief do you want to dispute? 2. What evidence exists of the falseness of this belief? 3. Does evidence exist of the truth of this belief?)によって学習者の回答を求めてもよい。<sup>11)</sup>このような作業を通して自分の不安がいかに根拠のないものかを悟り積極的にコミュニケーションをしようとする意欲が生まれてくると考えられる。自分の不安を客観的に理解するための試みは学習者の不安を取り除く 1 つの方法ではあるが、不安の度合が進んだ場合には不合理で根拠のないものであると分かりながらなお不安を感じることも多い。このような心理過程は病的になるから言語教育の研究としては扱われていない。

Anxiety graph を書く試みもある。Anxiety そのものを分析的に見つめると、話をしなければならない状況においても anxiety の程度が変化することがわかる。この点に着目して、それに対処する方法を話し合おうとする試みである。Brownell and Katula(1984) が明らかにしたグラフによると挨拶やスピーチを始める直前がもっとも anxiety が高く、他人のコメントを受け、それに対する回答をするときにも anxiety が高くなっている。

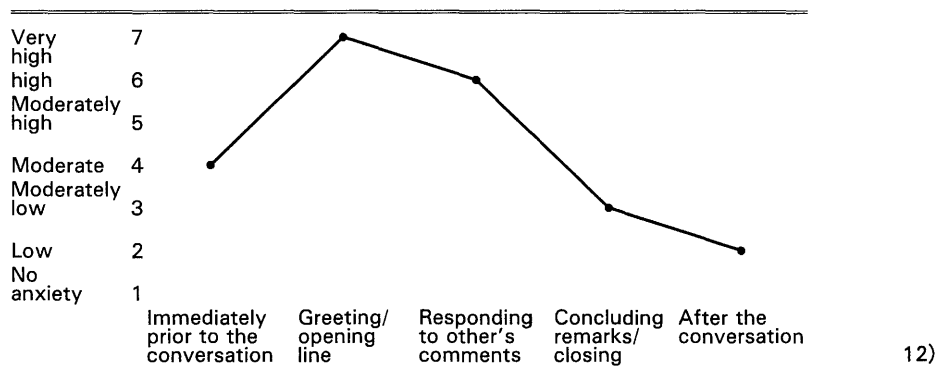


Fig. 2

Diary を学習者に目標言語で書かせる試みはその事自体が言語使用することになるから、よく用いられる学習方法である。学習者に言語学習についての考え、気持ち、習得した事項、方法、授業の印象を日記として書かせた研究は、Rivers(1983)<sup>13)</sup>、Bailey(1983)<sup>14)</sup> などにより行われてきた。Bailey は日記に表れている anxiety と competitiveness の分析を試みている。日記は研究者のための資料として使われる傾向にあったが、学習者が自

分の気持や考えを客観的に見るのに好都合の資料になるものである。教師が適切な指導を加えれば、学習者は自分の affective variables を客観的にみつめることができる。

### Affective Strategies に関する先行研究

Chamot and Kupper(1989)は外国語としてスペイン語を学ぶ high school の学生に各自の言語学習の方法について面接し、その録音を分析した。その結果学習者の strategy は主に cognitive strategy あるいは metacognitive strategy が用いられ affective strategy はほとんど現れなかった。<sup>15)</sup> Thompson(1992)は日本語を外国語として学ぶシンガポールの大学生を対象に行った実践報告を case study として報告している。クラス間で学生同士に interview をさせる授業展開を 1)pre-planning, 2)creating questionnaire, 3)pre-interview practice, 4)interview, 5)discussion and report の 5 段階に分け、学習者が自ら学ぶ strategy を紹介している。<sup>16)</sup> この論文でも、learning strategy は cognitive strategy 及び metacognitive strategy を中心にして行われ、affective strategy にはあまり関心が示されていない。言語習得の direct strategy が研究の中心になるのは言うまでもない。しかし Oxford, et al. (1990) の記述にもあるように affective な側面はすべての学習の基本をなすものであると考えられる。

Though often neglected in both strategy use and strategy training, affective strategies for managing emotions, attitudes, and motivation are important, and affective aspects are central to learning of all kinds.<sup>17)</sup>

Affective strategy は成功した学習者には意識されないかもしれないが言語学習に苦しんでいる学習者たちに意識的に教え込む必要がある。Ellis and Sinclair(1989)<sup>18)</sup> や Whenden and Rubin(1987)<sup>19)</sup> も strategy training の中で affective variables を重視している。

Affective strategy を具体的に扱った研究も数は少ないが見られる。Ehrman and Oxford(1990)は大人の学習者のとる strategy を、性差、年齢、職業、性格によって分類した。その中で外向性の人(extroverts)は affective strategy を使っていないこと、内向性の人の中には affective strategy を使っている者がわずかながらいることを明らかにした。<sup>20)</sup> この報告から、外向的な学習者にはその必要がないかもしれないが、内向的な人には計画的に affective strategy training が必要であると思われる。Ely(1989)は learning strategy と personality の関係を研究し、単に学習者に strategy について意識させ、それをを用いる機会を与えるだけでは不十分であり、教師は言語学習の習得法を阻害している affective variables に気がつかねばならないと指摘している。<sup>21)</sup> Lavine(1990)の報告では大学レベルでスペイン語を学ぶ学生を対象にした strategy training の研究で anxiety を少なくする strategy を教え込むことによって教室の雰囲気が変わったと報告している。<sup>22)</sup> Naiman, et al. (1978)による good language learner の研究では、言語学習に成功する 4 つの strategy を明らかにしている。その中に次のような strategy があげられている。この strategy の記述は、情意面から見ると物事に進んで対処していこうとする冒険心(willingness to take a risk)である。

Strategy 1: Good language learners actively involve themselves in the language learning task.

- (a) by responding positively to the given learning opportunities, or by identifying and seeking preferred learning environments and exploring them.
- (b) by adding related language learning activities to the regular programme, and/or intensifying their efforts.
- (c) by engaging in a number of practice activities.
- (d) by changing the purpose of an activity in order to focus on L2 learning.<sup>23)</sup>

積極的に言語活動に参加させるためには学習者が言語活動をするときの心理過程を見つめる必要がある。Ely(1986)は授業中の不安が学力に及ぼすメカニズムを言語活動の参加を軸にして考えた。その中で特に risk-

taking と授業への参加はプラスの相関があることを明らかにしている。<sup>24)</sup> Beebe(1983) による研究でも誤りや恥をかくことがあっても進んで物事に取り組む risk-taking は目標言語で言語活動をしようとする大きな要因となっていることが明らかにされている。<sup>25)</sup>

Strategy training をする場合にすべての学習者にある特定の strategy が有効であるというわけではない。Thomas(1992) と Oxford(1990) がそれぞれこの点に関して言及しているように、学習者 1 人ひとりの language learning の考え方 (learner belief) が大きく作用する。

Training in language-learning strategies is possible but can be “adversely affected by learner’s dysfunctional attitudes and beliefs.” (Thomas)<sup>26)</sup>

If learners have negative attitudes or unhelpful beliefs about language learning, strategy training must be structured so that these difficulties can be diminished. (Oxford)<sup>27)</sup>

2 人の研究者の言葉からも明らかのように learner belief の検討なくして strategy training は考えられない。Horwitz(1987) は Beliefs About Language Learning Inventory(BALLI) を開発した。この調査項目のなかには affective な側面として motivation や expectation についての項目が含まれている。<sup>28)</sup>

Learner belief を取り上げた研究としては、Horwitz(1985) が、学生は、学習意欲がわからないのは教師のためだと考えがちで、以前に教わった先生が熱心であったとしばしば回想すると報告している。<sup>29)</sup>Ely(1989) は motivation, attitude, concern for grades(成績への関心度)が strategy に影響すると述べている。たとえば motivation のある学習者は言語をしっかりと内在化しようとする。<sup>30)</sup>

Oxford, et al. (1990) の 7 段階からなる strategy training model(Stage 1; Stage 4) も学習者の learner belief, attitude, motivation に焦点を合わせて考えられたものである。

#### A Model for Strategy Training:

- 1) Setting the scene and exploring attitudes, expectations, and current strategies.  
... They are permitted to explore their anxieties, fears, and even anger toward language learning — feelings which are sometimes strong, especially if students have had negative language experiences in the past ....
- 4) Focusing directly on affective issues.  
... If learners have negative attitudes or unhelpful beliefs about language learning, strategy training must be structured so that these difficulties can be diminished. At this stage, the trainer lists various ways to pinpoint and reduce such problems: for instance, relaxation exercises; emotional checklists; extensive use of laughter in the classroom; regular writing of language diaries; diary-sharing, in which students read each others’ diaries and give suggestions about how they can lessen their fears and increase their confidence; and games and simulations that are specifically designed to identify and reduce anxiety. The trainer also considers ways to improve the classroom climate in general by eliminating punitive types of error correction and by changing communication patterns through group work, so that students do not have to do repeated, fear-producing solo performances in front of a class of onlookers. <sup>31)</sup>

Oxford, et al. は strategy training の第 1 段階として学習者の情意的な側面、特に不安や言語学習に対する憤りなどを調べることを提案し、第 4 段階で学習者の障害になっている心理的な要因を減じる手法、及び学習環境を改良する方法を紹介している。

## 今後の課題

Language anxiety はこれまでにかなりの調査研究がすすめられてきた。それに基づき humanistic approach を中心とする教授法の研究が行われてきたが、1人ひとりの学習者が anxiety に対してどう対応すればよいのかに焦点を絞った研究はほとんど行われていない。

Rubin(1975) が good language learner の learning strategies を綿密に観察した論文を発表してから、strategies の研究が盛んに行われるようになった。ところが strategy の研究でも cognitive 及び metacognitive な側面からのアプローチが多く、affective な側面はあまり研究されていない。このような状況の中で示された Oxford (1985, 1990) による strategies の分類は研究者に affective strategies をはっきりと認識させた点で大きな意味をもつと言えるであろう。

わが国では新指導要領が改正され、英語教育で oral communication がますます重要視されるようになった。外国人の英語教師も多く採用されるようになって、学習者は実際に oral English を使う場面が増えてきた。Speaking と listening の言語活動を成功させるためには今までの affective variables の調査研究を踏まえて一歩進んだ affective strategies の実践研究が望まれている。

## 註

- 1) Foss, K. A, and Reitzel, A. C, 'A Relational Model for Managing Second Language Anxiety', in *Language Anxiety*, ed. Horwitz, E. K, and Young, D. J, Prentice-Hall, New Jersey, p. 129(1991)
- 2) Spitzberg, B. H, and Cupach, W. R, *International Communication Competence*, Beverly Hills, CA:Sage(1984)  
前掲 1) *Language Anxiety* pp.131-134 を参照した。
- 3) Friedman P. G, *Shyness and Reticence in Students*, Washington, DC, National Education Association,( 1980)  
前掲 1)p. 129 を参照した。
- 4) Horwitz, E. K, Horwitz, M. B, and Cope, J. A, 'Foreign Language Classroom Anxiety', in *Language Anxiety*, ed. Horwitz, E. K, and Young, D. J, Prentice-Hall, New Jersey, p.129(1991)
- 5) Rubin, J, *TESOL Quarterly*, 9, No.1, pp.41-51(1975)
- 6) Ehrman, M, and Oxford, R, *The Modern Language Journal*, 74, p.311(1990)
- 7) Oxford R. L, *A New Taxonomy of Second Language Learning Strategies*, Washington: ERIC Clearing-house on Language and Linguistics, (1985)  
Oxford, R. L, *Language Learning Strategies*, Newbury House, New York, p.16(1990) を参照した。
- 8) 前掲 7) *Language Learning Strategies* p.21
- 9) 前掲 7) *Language Learning Strategies* p.165
- 10) 前掲 1) *Language Anxiety* pp.135-136
- 11) 前掲 1) *Language Anxiety* pp.135-136
- 12) Brownell, W. W, and Katula, R. A, 'The Communication Anxiety Graph: A Classroom Tool for Managing Speech Anxiety', *Communication Quarterly*, 32, (1984)  
前掲 1) *Language Anxiety* p.135 を引用した。
- 13) Rivers, W. N, *Communicating Naturally in a Second Language*, Cambridge Univ, Press, Cambridge, (1983)
- 14) Bailey, K. M, "Competitiveness and Anxiety in Adult Second Language Learning" in *Classroom Oriented Research in Second Language Acquisition*, ed. Seliger, H. W, and Long, M, H, Newbury House, Rowley, MA, pp.67-103(1983)

- 15) Chamot A. U, and Kupper, L, *Foreign Language Annals*, 22, No.1, pp.13-24(1989)
- 16) Thompson, C. K, *Foreign Language Annals*, 25, No.6, pp. 523-531(1992)
- 17) Oxford, R, Crookal, D, Cohen, A, Lavine, R, Nyikos, M, and Sutter, W, *Foreign Language Annals*, 22, No.3, p.198(1990)
- 18) Ellis, G, and Sinclair, B, *Learning to English: A Course in Learner Training*, Cambridge University Press, Cambridge, (1989)
- 19) Whenden, A. L, and Rubin, J, eds. *Learner Strategies in Language Learning*, Prentice-Hall, Englewood Cliffs, JJ. (1987)
- 20) 前掲6)pp.318-319
- 21) Ely, C. M, "Tolerance of Ambiguity and Use of Second Language Strategies", *Foreign Language Annals*, 22, No.5, pp.437-445(1989)
- 22) Lavine, R, "The Mnemonic 80's: Keywords in the Classroom", *Educational Psychologists* 16 *Foreign Language Annals*, 22, No.3, pp.203-204(1990)を参照した。
- 23) Naiman, N, Frohlich M, Stern, H. H, and Todesco A, *The Good Language Learner*, Research in Education Series, 7. Ontario Institute for Studies in Education  
Skehan, P, *Individual Differences in Second-Language Learning*, p.76(1989)より引用した。
- 24) Ely, C. M, *Language Learning*, 36, pp.1-25(1986)
- 25) Beebe, L. M, "Risk-taking and the Language Learner", *Classroom Oriented Research in Second Language Acquisition*, ed. Seliger, H. W, and Long, M. H, Newbury House, Rowley, MA, pp.67-103(1983)  
*The Modern Language Journal*, 74, p.459を参照した。
- 26) Thomas, J, "Metalinguistic Awareness in Second and Third Language Learning", *Cognitive Processing in Bilinguals*, ed. Harris, R, Elsevier Science Publishers B. V, Amsterdam. (1992)  
若本夏美, 「言語学習に対する Learner Belief について——Strategy Training のための1つの条件として」第19回全国英語教育学会発表資料(1992)を引用した。
- 27) 前掲7)*Language Learning Strategies*, p.209より引用した。
- 28) Horwitz, "Surveying Student Beliefs About Language Learning", in *Learner Strategies in Language Learning*, ed, Whenden, A. and Rubin, J, Prentice-Hall, London(1987)  
Horwitz, E. K, *The Modern Language Journal*, 72, No.3, p.284を参照した。
- 29) Horwitz, E. K, *Foreign Language Annals*, 18, No.4 (1985)
- 30) Ely, C. M, *Foreign Language Annals*, 22, No.5 (1989)
- 31) 前掲17) pp.208-209